

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第3935243号

(P3935243)

(45) 発行日 平成19年6月20日(2007.6.20)

(24) 登録日 平成19年3月30日(2007.3.30)

(51) Int. Cl. F I
AO 1 K 39/014 (2006.01) AO 1 K 39/014
AO 1 K 39/012 (2006.01) AO 1 K 39/012 B

請求項の数 1 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願平9-170115	(73) 特許権者	594208477
(22) 出願日	平成9年6月26日(1997.6.26)		ヨシダエルシス株式会社
(65) 公開番号	特開平11-9131		和歌山県御坊市藤田町吉田155番地
(43) 公開日	平成11年1月19日(1999.1.19)	(74) 代理人	100076406
審査請求日	平成16年4月6日(2004.4.6)		弁理士 杉本 勝徳
		(72) 発明者	吉田 擴
			和歌山県御坊市藤田町吉田155番地 ヨシダエルシス株式会社内
		審査官	坂田 誠
		(56) 参考文献	実公昭38-26684 (JP, Y1)
		(58) 調査した分野(Int.Cl., DB名)	A01K 39/01 - 39/014

(54) 【発明の名称】 養鶏ケージ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

餌樋と、該餌樋の長手方向に沿って摺動させるように構成されたフィーダーとを備えた養鶏ケージにおいて、

前記フィーダの下面には、前記餌樋の樋体の底面に接した状態で摺動するスライド部材が配設され、

前記フィーダのスライド部材と摺動する前記餌樋の樋体の底面は、前記樋体の他の部分より厚くしたことを特徴とする養鶏ケージ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本発明は、養鶏舎における列設された養鶏ケージの前面に、ケージ内の鶏に餌を供給するための餌樋が設けられた構造の養鶏ケージに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来より、多数併設された養鶏ケージに設けられる餌樋として、図5に示されたような断面形状の餌樋100が多く用いられている。その一例は、実公昭61-37251号の公報に開示されている。この餌樋100は中央部の溝状のV字状の傾斜部101と、それより一段高い傾斜部102とを備えている。

【0003】

10

20

そして、このような形状の餌樋内に餌を供給するために、図6に示したようなフィーダー103が設けられており、このフィーダー103には餌を均すための均し具104,105が付設されている。フィーダー103は前記餌樋100の長手方向に沿って往復動して、餌を均一に供給しながら、その表面を均すように構成されている。

【0004】

フィーダー103が餌樋100に沿って往復動するとき、フィーダー103の下面に配設されたスライド部材106は餌樋の表面に接した状態で摺動する。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、上述したような従来の餌樋では、フィーダーの下面に配設されたスライド部材106が餌樋100の表面を摺動するために、餌樋とスライド部材との接触部分(図5のAの部分)を磨耗させるので、餌樋が薄くなり強度が弱くなるだけでなく、長期間の使用によっては孔があいてしまうという問題があった。

【0006】

そこで、本発明は、フィーダーのスライド部材が摺動しても、孔のあかない餌樋を備えた養鶏ケージを提供することを目的としてなされたものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】

本発明にかかる養鶏ケージは、餌樋と、該餌樋の長手方向に沿って摺動させるように構成されたフィーダーとを備えた養鶏ケージにおいて、フィーダの下面には、前記餌樋の樋体の底面に接した状態で摺動するスライド部材が配設され、前記フィーダのスライド部材と摺動する前記餌樋の樋体の底面は、前記樋体の他の部分より厚くしたものである。

【0008】

【発明の実施の形態】

以下に、本発明にかかる養鶏ケージを、その実施の形態を示した図面に基づいて詳細に説明する。図1は養鶏ケージの要部の餌樋の側面断面図、図2は使用状態の側面断面図である。

【0009】

図1において、1は本発明の養鶏ケージの餌樋であり、樋体2の底部に、その幅方向中間部に向けて緩やかに傾斜した略水平の底面21A,21Bを形成し、この底面21A,21Bに挟まれた幅方向中央部に、樋体2の長手方向に沿って前記底面21A,21Bの傾斜よりも急な傾斜底面22A,22Bを持つ凹窪22を形成した。6は前記底面21A,21Bに形成された3本の凸条であり、それぞれ、樋体2の長手方向に形成されている。

【0010】

図2において、3は本発明のフィーダーであり、給餌装置(図示せず)からホース33を介して供給される餌を餌樋1内に供給するものである。中央部の均し板31とその両側の均し板32A,32Bとが揺動自在に垂設されている。4は走行ユニットであり、その下面にスライド部材5A,5Bが装着されている。このスライド部材5A,5Bは表面が滑らかなプラスチック製であり、走行ユニット4の枠部に下方から嵌め込めるように溝が形成されている。

【0011】

前記フィーダー3はスライド部材5A,5Bによって樋体2の凸条6に載った状態で摺動するように配設されている。

【0012】

上記構成の養鶏ケージにおいて、餌を供給するときは、ケージ上部に設置されたレールに沿って移動するホッパーから、ホース23を介してフィーダー3に餌が供給される。フィーダー3の下面から餌樋内に供給された餌は、均し器31によって表面が均される。外側の均し器32A,32Bは底面21A,21B上に散らばった餌を凹窪22側へ掻き寄せて、嘴でつい

10

20

30

40

50

ばみやすくする。

【0013】

餌樋の端部に至ったフィーダー3は所定時間停止した後、即ち、餌が少なくなるとともに、散らばって食べにくくなった頃を見計らって、反対側の端部を目指して移動開始する。このときは、餌は供給せずに均すだけでもよい。

【0014】

このように、フィーダー3が往復して餌を供給したり均したりする度に、スライド部材5A, 5Bと凸条6とは擦れ合って磨耗する。スライド部材5A, 5Bが磨耗した場合には、走行ユニット4の側面パネルに装着されているスライド部材5A, 5Bを引き抜いて、新しいスライド部材5A, 5Bと交換するとよい。

10

【0015】

なお、スライド部材5A, 5Bを数回交換する等して長期間に渡って使用した場合には、餌樋側も磨耗するが、餌樋側の磨耗の仕方は凸条6が低くなるという磨耗の仕方であるので、直ちに、樋体2が薄くなったり孔があいたりするというものではない。よって、手間とコストが嵩む樋体の交換に代えて、手間とコストがかからないスライド部材5A, 5Bの交換で済むので、設備のメンテナンスが簡略化および低コスト化されるという効果が得られる。

【0016】

凸条6は、各スライド部材に対して少なくとも1本あればよく、餌樋の長手方向に平行でなくてもよい。図3に示したように、断続した複数の凸条6Bを設けて、餌を掻き寄せやすくしてもよい。さらに、図4に示したように、フィーダーと摺接する部分の餌樋Bの厚みを、他の部分Cより厚くしてもよい。また、均し板32A, 32Bとスライド部材とを兼ねた部材を設けてもよい。

20

【0017】

また、凸条6は樋体と一体に成形してもよいが、別途成形したものを接着等によって付設してもよい。樋体の構造は図示した形状に限定されるものではなく、フィーダーが摺動して餌を供給する構造であればよい。スライド部材の材質は、テフロン等の滑らかな樹脂が好ましいが、金属等の他の材質を使うことも可能である。また、小さな車輪を設けて摩擦を低減してもよい。

【0018】

30

【発明の効果】

本発明にかかる養鶏ケージによれば、フィーダーと摺接する部分の餌樋の厚みを厚くしたので、多少磨耗しても孔があかず、長期間交換することなく使用できるのである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明にかかる養鶏ケージの実施の形態の要部を示した断面図である。

【図2】 本発明にかかる養鶏ケージの使用状態を説明する断面図である。

【図3】 本発明の他の実施の形態の要部の斜視図である。

【図4】 本発明の他の実施の形態の要部の断面図である。

【図5】 従来の養鶏ケージの餌樋の断面図である。

【図6】 従来の養鶏ケージの餌樋の使用状態を説明する断面図である。

40

【符号の説明】

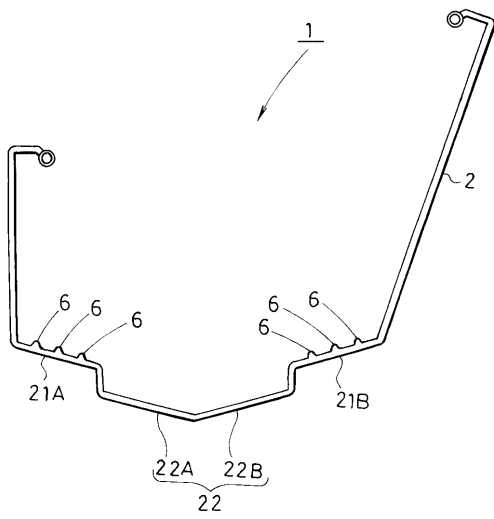
- 1 餌樋
- 2 樋体
- 21A, 21B 底面
- 22A, 22B 傾斜底面
- 22 凹窪
- 6 凸条
- 3 フィーダー
- 31 中央部の均し板
- 32A, 32B 両側の均し板

50

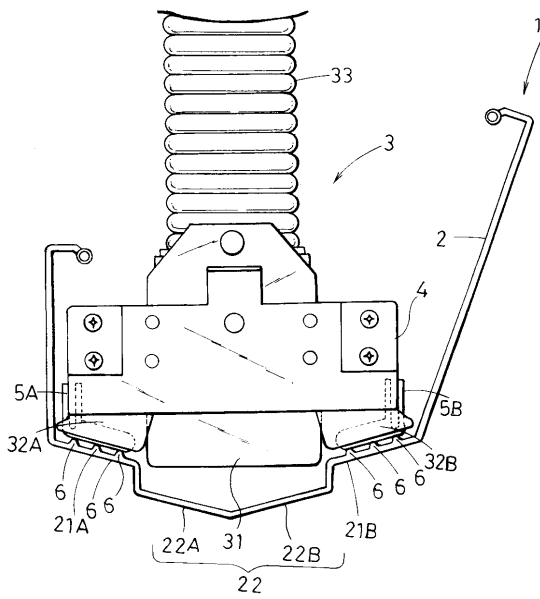
4 走行ユニット

5 A , 5 B スライド部材

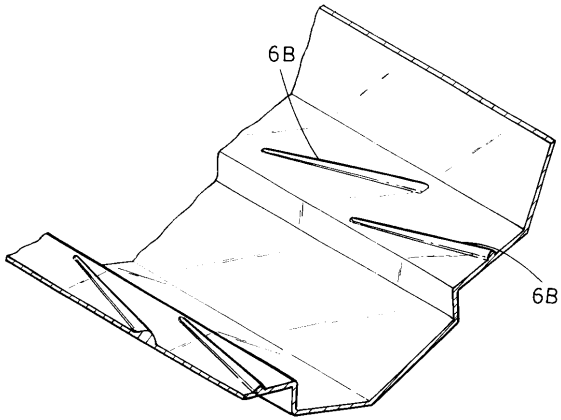
【図1】



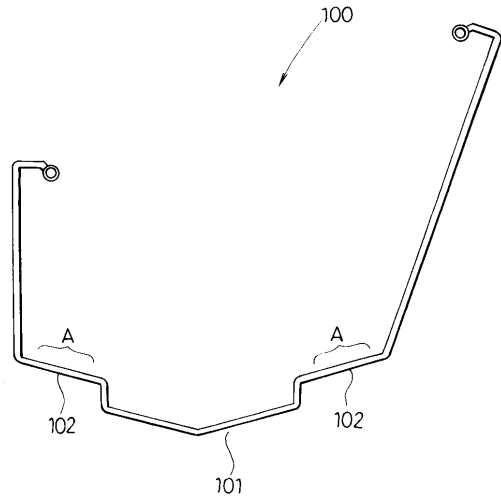
【図2】



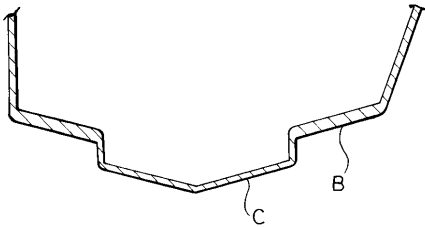
【 図 3 】



【 図 5 】



【 図 4 】



【 図 6 】

